

## 祖父の仁川生活始まりの場所

祖父は朝鮮機械製作所で勤務するため、昭和13年3月東京での生活を終え仁川へと渡った。朝鮮機械製作所は昭和12年6月設立、仁川では比較的新しい会社で、鉦山機械の製造をしていた。朝鮮機械製作所が作られたころ頃は仁川に大工場が多く建てられている時期で、労働者を中心に仁川への流入人口が爆発的に増えていた。そのことを証明するように祖父の手紙には仁川の住宅難は想像を絶するとあった。また朝鮮機械製作所が社宅を建設中であることもわかった。

祖父から届いた手紙の差出住所は仁川府松坂町二丁目六番地、ここが祖父が仁川で最初に暮らした場所である。半年後の9月には祖母と母が仁川に渡り、家族3人の生活となった。松坂町の住宅は朝鮮機械製作所が祖父のために用意してくれたようであるが、借り上げたのか朝鮮機械製作所が購入したのかはわからない。朝鮮機械製作所がある万石町には京仁線の線路を越え、徒歩20分といったところだろう。松坂町は現在松月洞といい、二丁目六番地は最近整備されている童話村へと続く道の入口付近にある。ちょうどそこに古い建物がまだ残っていた。祖父一家が暮らした家なのかはわからないが、一応写真に撮っておいた。



その後、祖父一家は12月に花水町八番地にある朝鮮機械製作所社宅に引越しをしている。松坂町での生活は10ヶ月ほどだった。

